

- 1 派遣期日 令和元年10月11日(金)
 2 研修先 学校名(会場名) 群馬大学教育学部附属中学校
 所在地 群馬県前橋市上沖町612
<https://jhs.edu.gunma-u.ac.jp/>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取組

研究テーマ：集団や社会の一員としての「見方・考え方」を育み、主体的に問題解決できる生徒の育成

群馬大学教育学部附属中学校では、「自ら問題を解決し、未来を作る生徒の育成」という研究主題で3年計画の研究を行っており、本年度は2年次の研究である。今年度は、学習過程と「思考力・判断力・表現力等」の関係に焦点を当て取り組んでいる。それらを踏まえ、「問題解決の過程」に視点を当てている。その過程の中で「見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問いを見いだして解決したり、自己の学習活動を振り返って次につなげたりし、新たな価値を創造する資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指している。学級活動における基本構想は以下の通りである。

- ① 新しい学習指導要領より身に付けさせたい資質・能力について
- ア 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けられるようにする。
 - イ 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したりすることができるようにする。
 - ウ 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
- ② 学級活動における学習過程
- ア 問題の発見・確認(議題の決定)
 - イ 解決方法の話し合い
 - ウ 解決方法の決定
 - エ 決めたことの実践
 - オ 振り返りのサイクル
- これらを繰り返すこと、経験することで自主的・実践的な活動を促すことが重要であると考える。
- ③ 「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手立て
- ア 話し合い計画表の活用(話し合いの振り返り)
 - イ 振り返りカード(図1)や掲示物の工夫(実践の振り返り)

⑦ ここまでの学習をもとに、他者とよりよい人間関係を築くために、自分が意識して取り組んでいきたいことを書きましょう。

【1週間実践してみた自己評価】

A・B・C・D・E		
できたところ	できなかったところ	これからの課題

〈図1 振り返りカード〉

(2) 視察校における授業の実際

第3学年 学級活動 題材名「他者の心情を基準によりよい人間関係について考えよう」
 身近なトラブルの事例の原因や解決についての自分の考えをもち、グループ合意からのクラス合意を形成していき、様々な視点から問題解決の方法を考えていく題材である。本時は、法的視点からいじめの定義を学び、相手基準の行動の必要性和難しさを考える授業であった。
 授業始めに、事前アンケートやワークシートの結果から本時に取り扱うトラブルが身近なものであり、クラス共通の課題であることを確認していた。それから本時の事例内容が「いじめ」に該当するかを個人で考える時間を十分に確保していた。さらにその後の発表の際には、「自分の考えに対する理由」が大事であることを伝え、理由を述べる場面を多く確保していた。グル

ープ交流（4人）の時間（図2）も十分に確保し、グループ交流後に考えが変わった生徒を中心に理由を全体で共有する場面がみられた。

個人→グループ→クラスと意見交流の場を広めて、様々な見方・考え方に触れる時間を丁寧に確保していた。

その後、法的な視点から「いじめ」の定義について考える活動に入った。クイズ形式で実施され、生徒たちは、意外な内容に驚く様子が多くみられた。

授業を進めていく中で、授業者は、生徒に意見や理由を聞き、その上でその理由を深めていく質問を尋ねていた。さらに、グループ交流の際には、机間指導を行いつつ、指名計画も行っていた。（図3）また、指導案にもあるように〈つかむ〉〈さぐる〉〈見つける〉〈決める〉の展開に沿った授業になっていた。

グループやクラスでの合意形成では、様々な視点からの意見が出ていた。また、「どちらともいえない」と答えた生徒も明確な理由を述べる事ができていた。そこから、最後に今後の自分が意識することについて言葉でまとめる活動を行った。授業者は、必ず生徒自身の言葉で表現できるように支援をしていた。



〈図2 グループでの意見交換の様子〉



〈図3 机間指導での指名計画〉

4 感想

授業を参観して最も驚いたことは、一人一人が自分の意見をもっていること、自分で考えた意見に対する理由を明確にしていること、それらを表現できていたことである。自己決定の場からグループでの話し合いやクラスでの共有の場においても話し合いのマナーやルールが身に付いており、自分の意見に自信をもって発表している姿に感動した。授業者によると、学級活動については大きくわけて学級会と学級活動の2種類とし、生徒全員が学級活動委員会を経験することで、異なる意見と折り合いをつける方法や一人一人が意志決定する態度を育む取組を継続しているという。学級活動での議題に対して、なぜ話し合うかを学級で共通理解し、決めたことを実践し、振り返りの時間を確保していた。また、議題については生徒からの提案がほとんどであり、議題が決まってからは、委員会が中心となり、話し合い計画表（図4）を活用して話し合いを進めていく手順が明確に示されている。生徒一人一人が当事者となり、問題解決のために多面的・多角的に考えられる手立てが準備されていた。

さらに驚いたことは、本時が1時間の中で生徒全員が発言している授業であったことである。発言を引き出す工夫があったり、クラスの雰囲気づくりがあったりと授業者から生徒に対する思いやりが伝わってきた。授業者の生徒一人一人への声掛けや対応が丁寧で個に応じている点も生徒が安心して意見を述べられる雰囲気作りに繋がっているように思えた。そのような授業者の日々の言動が生徒にも浸透しており、グループ活動では、生徒同士での励ましや発言を引き出す声掛けができていた。

また、振り返りにおいて、自分で決めた個人目標についての振り返り、さらに新たな行動目標を設定できる点に感心した。生活改善に結びつけられるような仕組みになっており、学級会等で行った内容を意識した学校生活を送れる工夫がなされていた。

今回の授業では、学級活動の時間は学級経営そのものが縮小され、反映されるように感じた。日頃の担任の声掛けや言動によって、生徒の様子も変わってくるように思う。今回の素晴らしい実践を今後の指導に生かしていきたい。

附中学級会 話し合い計画表 (計画委員用) 5月1日(火) 校時	
3年1組 第 1 次	
議題	修学旅行の可否を話し合う
議題理由	修学旅行の可否を話し合う。話し合いの中で修学旅行の可否を話し合う。話し合いの中で修学旅行の可否を話し合う。話し合いの中で修学旅行の可否を話し合う。
役割分担	司会 () / 記録係 () / 発表係 () / 整理係 ()
議題の進め方	話し合いの進め方
1 議題の発表	話し合いの進め方
2 司会者・記録係の紹介	話し合いの進め方
3 議題の発表・質疑	話し合いの進め方
4 投票理由の発表	話し合いの進め方
5 先生の総括	話し合いの進め方
6 話し合い	話し合いの進め方
(1) 話し合いの中心となる議題を話し合う	話し合いの進め方
(2) 話し合いの中心となる議題を話し合う	話し合いの進め方
7 決定事項の確認	話し合いの進め方
8 発表準備・発表記入	話し合いの進め方
9 発表の場	話し合いの進め方
10 話し合いの進め方	話し合いの進め方
振り返り	話し合いの進め方

〈図4 話し合い計画表〉